



題字 井口 文章
再刊 第240号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2017

みんなでつくる
錦城高校新聞

錦城祭準備号

(来場者用特別版)

さあ、錦城生の実力をとくとご覧あれ!

全員が輝く錦城祭!

ついに本番! 秋の祭典

本日9月16日はいよいよ待ちに待った錦城祭。各クラスや部活などではそれぞれ、夏休み前から試行錯誤しながら準備を進めてきた。グルメ、展示、演劇や映像、部活の発表など、盛りだくさんの企画を是非楽しんでほしい。

細部までこだわる演劇

オトジュリエット」と同様に、正規と男女逆転の2通りで「ピーターパン」を上演する。錦城祭前は放課後にほぼ毎日



錦城祭3日前、クラスみんなで輪になってレンガの外装に取り組んでいる2L

練習を行って、大道具なども去年の失敗を生かして作成したそう。美術係の伊藤千穂さんは、外装や大道具全てにおいて細部までこだわっているの注目に値しているという。クラス企画委員の土田裕己くんは「本番までにもっと面白い要素を盛り込んでいきたい」と話していた。

「モンスターカフェをイメージしている。定番メニューの他には「PPAP」を意識したメニューも楽しめる。準備について聞くと「みんなが自主的に動いてくれるからとても助かります」と倉持さんは笑顔を見せる。最後に2人は「本番ではクオリティの高さでお客さんを驚かせます」と意気込んだ。



モンスターオブジェ製作中

図書委員 明大図書館&古本街巡り

8月30日(水)、図書委員6人が明治大学の図書館と神保町の古書店街へ行った。図書委員長の中森美月さん(2B)によると、図書委員は毎年、本に関する場所を見学している。今年訪れた明治大学の図書館は、蔵書122万冊の広々とした開放感のある空間だったという。「普通の図書館ではジャンル別に並んでいる



神保町の一角にある古書店

町古書店街では通りに並ぶ古書店を見て回った。「古書店に行くのが初めてでも、明るくて入りやすかった。日差しを避けるため本が北向きに並んでいるという工夫を知れました」と振り返る。

明治大学の近くにある神保町古書店街では通りに並ぶ古書店を見て回った。「古書店に行くのが初めてでも、明るくて入りやすかった。日差しを避けるため本が北向きに並んでいるという工夫を知れました」と振り返る。

百見堂(古本市)

地元の方や錦城生から寄付していただいた本を旧校舎3階の2Kで販売しています! 価格は1冊100円や150円です。お気に入りの一冊を見つけないか?

邦楽同好会「錦舞台」

旧校舎4階2F教室にて13時30分から演奏中

新聞委員会、旧校舎6階 被服室で展示しています!

錦城高校新聞委員会は今年も新聞の展示を行っています。今年の会場は2号棟(旧校舎)6階にある被服室。部屋には昨年9月発行の211号から、最新の239号までが入り口付近にずらりと並ぶほか、「再刊からの傑作選」も展示。さらに錦城新聞のバックナンバーが入ったファイルも置いてあります。錦城生の一年間のあゆみを確認できることはもちろん、バックナンバーでこれまでの錦城高校の歴史を振り返ることもできます。もう一度読みたいあの新聞、ぜひこの機会に読んでみませんか? (加)

錦城祭に新たな風を運ぶ新企画

7年ぶり復活の邦楽

2年前、およそ7年ぶりに活動を再開して以来、初めて錦城祭で演奏会をする邦楽同好会。錦城祭では「デザインモデル」などのポップスも演奏する。

「我ら時を旅する合唱団」

有志団体による合唱が錦城祭一日目に10曲、二日目は4曲、多目的ホールで行われる。代表の稲井澤加さん(2H)が合唱を企画したきっかけは、怪我で部活をやめたことだ。「今しかやれないことをやりたい」と声をかけると、やり

生物部に新たな命

5匹のデグー生まれる

8月24日(木)生物部で5匹のデグーの赤ちゃんが生まれた。デグーは齧歯目、ヤマアラシ亜目のデグー科に属し、見た目はネズミに似ている。人に懐きやすい動物だ。部長の山崎美世さん(2H)に話を聞くと、毛の色は通常茶色だが、うち2匹は珍しいブルーだったそう。集団で行動する動物なのでケージから出して戯れているが、刺激を与えないように優しく触ることに徹しているそうだ。とにかく可愛いデグーに部員は夢中だ。(泰)

映画研究部新作「地元」

太平洋戦争末期の1945年4月2日。日本軍の高射砲から撃った弾が直撃したB29(アメリカ軍の爆撃機)が東村山市秋津町の小俣権次郎さんの茶畑に墜落し、乗組員11人はその場で全員死亡した。小俣さんは亡くなれば敵も味方もない、丁寧に葬ってあげたい」と思いから、敵兵を丁寧に葬ることは許されない当時の雰囲気にも負けずに、墓地に吊った。1960年には、亡くなった乗組員を慰霊し世界平和を祈る平和観音像を建立した。



小俣さんが立てた平和観音

東村山市在住の大井さんは「地元について知りたい」と思っていたところ、偶然この話を聞いたという。話を聞くうちに地元の戦争を多くの人に伝えなくてはと感じたそう。小学校や公民館などで紙芝居を使った語り部をしている。活動するうちに地元の歴史があまり知られていないと

映画研究部新作「地元」

文さんについて作品を作っている。映研は8月23日(水)に第1回目の取材として大井さんと東村山ふるさと歴史館文化財係の松崎睦彦さんに取材し、新聞委員会編集室も同行することができた。

紙芝居を実際に見せてもらう

映研は錦城祭で「映研ローション」(至多目的ホール)を開催する。今年度の都大会で優勝し、全国NHKコンテストに出品した2作品(錦城新聞234号2面参照)など計7つのドラマ・ドキュメンタリー映像に加え、3つのCM映像が流される。ぜひ足を運び、全国レベルの映像を楽しんでみてはいかがだろうか。(穂)



紙芝居を実際に見せてもらう